

【学校の教育目標】 自他を尊重し、論理的な思考力と豊かな表現力で、粘り強く課題解決を図る生徒の育成

【育成を目指す資質・能力】 自他を尊重する態度 ・ 論理的な思考力と豊かな表現力 ・ 粘り強く夢の実現に取り組む力

重点目標	達成指標	学校自己評価			学校関係者評価
		達成指標に対する達成状況の確認 (達成率)	達成指標・取組指標の妥当性を 検証	改善方策	( 2月20 日 ) 考察・評価
論理的な思考力と豊かな表現力の育成	<p>○低学力層(40点未満)20%以下 【単元テスト・定期テスト】</p> <p>○「授業の内容に興味関心がもてる」生徒、90%以上 【生徒アンケート】</p> <p>○生徒の論理的な思考力や表現力を問う問題の正答率、70%以上 【単元テスト・定期テスト】</p>	<p>○低学力層(40点未満)の生徒の割合 *5教科 3学期 全体 19.6% <b>達成率 100%</b> (1年25.4% 2年18% 3年15.4%)</p> <p>○「授業の内容に興味関心がもてる」と答えた生徒の割合 3学期 全体 92.8% 達成率 100% (1年97.5% 2年86% 3年95%)</p> <p>○生徒の論理的な思考力や表現力を問う問題の正答率 3学期 全体 42.4% <b>達成率 60.6%</b> (1年43.8% 2年42% 3年41.4%)</p>	<p>【単元計画の提示】 ○生徒も学習カードの効果的な活用ができるようになった。また、生徒・教師間で単元で目指す姿や課題の共有ができた。 ○教え合いやグループ学習を単元ごとに設定することで、活気ある授業が増えてきた。 【振り返り活動や帯学習】 ○効果は見られたが、現状学力の2極化が見られるので、時間の確保をし、引き続き実施する必要がある。 【学習集会の実施】 ○学ぶことの意義や書くことの重要性を意識させることができ、生徒の変化が見られた。効果的であった。 【家庭による子どもの学習成果把握】 ○各種通信や「あんしんメール」の活用等で引き続き情報提供していく必要がある。 【地域の積極的な授業参観】 ○学校公開日をPRする必要がある。</p>	<p>■達成指標については、変更しない。</p> <p>&lt;継続する取組&gt; ①「学習カード」の中に、教え合いやグループ学習ができる課題解決学習を位置づけて、生徒同士の学び合いが深まるようにする。 ②知識・技能の確実な定借のために、ドリル(反復)学習を、各教科や学級の中で帯学習として設定する。 ③学習集会を持つとともに、「書く」指導について、ノート指導等各教科でさらに工夫をする。 ④家庭・地域の取組</p> <p>&lt;改善したり新たに取り入れる取組&gt; ①<b>重点目標としてユニバーサルデザインを念頭に個別の指導計画計画を生かす授業を進める。→授業で効果的な支援や配慮すべきことを一覧表にして共通理解する。</b> ②週1回、全校でスキルタイム学習を設定する。</p>	<p>○授業内容に興味関心がもてる生徒が多く、楽しい分かる授業づくりを進めていることが分かる。</p> <p>○低学力層について、目標値は達成できているが、市の学力調査では2極化が見られるので、引き続き知識・技能と確実な定着に向けた取組を進めてほしい。</p> <p>●生徒の表現力の育成に力を入れてほしい。プレゼンや説明、合唱等、表現することで自信がつく取組を更に進めてほしい。</p> <p style="text-align: center;"><b>評価 A</b></p>

豊かで逞しい心身の育成	<p>○「学校が楽しい」と回答する生徒の割合、90%以上 【生活アンケート】</p> <p>○「自分の話をきちんと聞いてくれる人がある」生徒、90%以上 【生活アンケート】</p> <p>○目標達成に向けて、粘り強く、計画的な家庭学習を進めている生徒、80%以上 【教師アンケート・生徒アンケート】</p>	<p>○「学校が楽しい」と回答する生徒の割合 3学期 全体 94.2% <b>達成率 100%</b> (1年87.6% 2年95% 3年 100%)</p> <p>○「自分の話をきちんと聞いてくれる人がある」生徒の割合 3学期 全体97.2% <b>達成率 100%</b> (1年100% 2年 100% 3年 91.7%)</p> <p>○目標達成に向けて粘り強く計画的な家庭学習を進める生徒の割合 ①教師アンケート 3学期 全体68% <b>達成率 85%</b> (1年60% 2年80% 3年64%) ②生徒アンケート 3学期 全体76.9% <b>達成率 96%</b> (1年87.5% 2年85% 3年58.3%)</p>	<p>【諸活動におけるめあてと振り返りの設定】 ○教師の評価、自己評価、生徒同士の評価が具体的に行われ、自他の成長を認め合う集団の素地ができつつある。 【家庭学習計画を立てる時間の設定】 ○帰りの会での時間設定が有効であった。●改善すべき点を明確にし、個に応じた支援をさらに進める必要がある。 【家庭の取組】 ○懇談会で保護者アンケートの結果を報告し、家庭の取組の情報交換ができ、好事例や問題の共有ができた。 【地域の取組について】 ○年間を通じ、体力向上、学習支援、部活動支援等の協力が得られた。 ●CS委員が地域に働きかけるように協議をし、システムを整える必要がある。 ■達成指標・取組指標は概ね妥当であるが、「地域の取組」については、更なる活性化を目指し、取組指標を見直す方向で考える。</p>	<p>■重点目標を2つに分割して設定する 1. 目指す自分に向けて粘り強く自律的に取組態度を育成するキャリア教育 2. 自他の良さに気づき協働によって課題解決を図る、学びに向かう集団づくり &lt;継続する取組&gt; 1)について ①諸活動における「めあて・振り返り」活動の充実 ②望ましい家庭学習の習慣化 ③教育相談の充実 ④家庭教育力UPの5か条の取組 ⑤地域：郷土学の支援 2)について ①スマイルタイムの充実(人間関係づくりプログラム・FUNFUNスポーツ) &lt;新たな取組&gt; 2)について ①「合唱」を軸とした集団づくり ②自分の問題として捉え、考える人県教育 ③家庭：子どもの自己有用感や集団の成長を促す働きかけ ④地域：生徒の活動への評価を見える化する ※達成指標については、変更しない。</p>	<p>○2学期末に実施した1・2年生の三者面談等は、早い段階から高校入試を意識させ、目標を持たせる上でも、大変よい取組である。</p> <p>○「話を聞いてくれる人」がいると答えた生徒が多いのは心強い。子どもには、人の話を聞いてあげられる人にもなってほしい。</p> <p>●SNSも含めて家での時間の使い方には課題がある生徒が少なくない。家庭と一層連携、協力して対応して欲しい。</p> <p><b>評価 A</b></p>
生徒と向き合う時間	<p>○休日出勤や、持ち帰り仕事を含む超勤時間、月30時間以内</p> <p>○年休行使、月1日以上、年間13日以上</p>	<p>○休日出勤や、持ち帰り仕事を含む超勤時間、1月・2月の平均 31時間 30時間以内の職員の割合 50% <b>達成率 50%</b></p> <p>○年休行使、月1日以上の職員の割合 100% <b>達成率 100%</b></p>	<p>○入試に係る事務等で3学年部の超勤が増えたが、教育課程の作成の分担を減らすなどの工夫はできた。</p> <p>○デジタルでは徹底しないものがあるので、紙媒体との使い分けが必要。</p> <p>○地域の取組については、引き続き呼びかけをし、積極的に支援を要請する。</p>	<p>○引き続き、教員が「生徒と向き合う時間」をきちんと確保できるように、工夫をしていく。</p> <p>○地域の取り組みについては、取り組み指標を「学校運営協議会委員は、行事表等を活用し、計画的に学習支援・環境整備支援を行う」に変更する。 ■働き方改革の軸として今年度の取組は継続するが、学校評価の4点セットの評価表には取り上げない。</p>	<p>○多様な生徒に対し、一人一人に丁寧な指導支援をしていることを考えると、大変だろうと察する。健康管理をしっかりしていただきたい。</p> <p><b>評価 A</b></p>